

特別支援学校(知的障害者)における就労支援に関する研究(6) -卒業生・就労先へのインタビュー調査から-

今 林 俊 一*・榊 慶 太 郎**

(2019年10月21日 受理)

A Study of Employment Support at Special Needs School
(for Children with Intellectual Disabilities)(6)
:Analyses of Interviews with Graduates and Employees

IMABAYASHI Shunichi, SAKAKI Keitaro

要約

本研究では、一般就労した特別支援学校(知的障害者)の卒業生の現在の状態について就労先の視点から把握し、榊・今林(印刷中)が卒業生を対象に行ったインタビュー調査の結果と比較することで、卒業生の現在の状態についてより客観的に捉えることを目的としている。卒業生とその就労先からのインタビュー調査から共通するものや差異のあるものを整理・比較し、その結果から見えてくるものを通して、学校を卒業し社会に送り出す際に、関係機関に対して、学校側から働き掛ける視点を考察した。その結果、就労先の支援体制としては、卒業直後の仕事内容として、ある程度、毎日の仕事の流れが決まっていて、一定の手順に従い作業を行うことができるようにするなど構造化を図ることが重要である。また、「ありがとう」や「期待している」等のメッセージは非言語的なメッセージだけでなく言語的なメッセージとして伝えることで、一般就労した卒業生が「必要とされる自分」を感じ、意欲的に働くことにつながることを示唆された。

キーワード：特別支援学校，知的障害者，就労支援，卒業生，就労先

* 鹿児島大学 法文教育学域 教育学系 教授

** 鹿児島県立武岡台養護学校 教諭

問題と目的

近年、働く障害のある人が増えてきている。厚生労働省（2019）の平成30年障害者雇用状況の集計結果によると、民間企業における雇用障害者数、実雇用率ともに過去最高を更新している。また、2018年4月から障害者総合支援法に基づく就労定着支援の障害福祉サービスが開始された。このことは、一般の常用雇用労働者と比べたときに、知的障害者の離職のリスクが大きい実態が報告される（田中，2006；福井・橋本，2015）など、就労に関する様々な課題解決を支援する必要性が高まっていることが背景にある。

特別支援学校高等部を卒業した知的障害者についても、就職率は全国平均で32.9%（文部科学省，2018）と近年上昇傾向にある一方、村野（2016）は、特別支援学校高等部を卒業し、一般就労した卒業生の課題の一つに就労後の定着率の低さを指摘している。

これらのことから、特別支援学校の進路支援としては、生徒の在学中において一般就労したり、就労を継続したりするのに必要な力の育成とともに、卒業生の予後指導（アフターフォロー・アフターケア）における定着支援の要素も求められている。独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業センター（2014）も、3年以上職場定着する要因は、「適切なマッチングやフォローアップがある程度行われていること」や「企業側の配慮がある程度あること」、長期定着の要因としてはジョブコーチなどによる「集中的な支援や継続的なフォローアップ」等と報告するなど様々な支援の重要性を指摘している。これらの課題に対し学校では、学校教育から職業生活への円滑な接続を図るためのキャリア教育に取り組み充実を図っている。キャリア教育の充実を図る上で、就労直後の卒業生の職業生活への適応の状態から在学時の指導を改善していく視点も必要であろう。

榎・今林（印刷中）は、一般就労した特別支援学校の卒業生（知的障害者）を対象としたインタビュー調査を行い、卒業生の現在の状態を把握し分析することを通して、就労継続のための効果的な指導・支援の在り方の考察を試み、就労直後の卒業生にとっての効果的な関係機関との連携の課題を明らかにしている。しかし、卒業生の現在の状態について、就労先は多様な捉え方をしている可能性も考えられる。そこで、本研究では、卒業生の現在の状態について就労先の視点から把握し、榎・今林（印刷中）が卒業生を対象に行ったインタビュー調査の結果と比較することで、卒業生の現在の状態についてより客観的に捉えることができよう。そして、共通するものや差異のあるものを整理・比較し、その結果を導くメカニズムを検討して見えてくるものを通して、学校を卒業し社会に送り出す際に、関係機関に対して、学校側から働き掛ける視点を明らかにすることを目的とする。

方法

1. 調査対象者

本研究の調査対象者は、榎・今林（印刷中）がインタビュー調査を行ったY県立Z特別支援学校高等部を2019年3月に卒業し、一般就労した卒業生3名の就労先3事業所である。就労先3事業

所の回答者は、卒業生が実際に働く現場の責任者の立場(店長やグループリーダー等)の3名である。

なお、榊・今林(印刷中)が先行してインタビュー調査を行った対象の卒業生3名は、知的障害があり、一般的な日常生活において言語でのコミュニケーションをとることができる。

2. 調査の内容

就労先への質問項目は、榊・今林(印刷中)による卒業生へのインタビューの質問項目と同様の内容について就労先担当者の視点で回答できるようにした。具体的には、卒業生への質問項目の「あなたは」の部分を卒業生の名前に言い換えた上で、就労先担当者への質問に適する表現になるように文末等を工夫した(Table 1)。質問項目の内容は、①仕事をするとときに困ったことがあるかないかの認知について(「人間関係・コミュニケーション」「仕事の指示理解・対処能力」「仕事の内容」の三つの観点)、②相談者の有無について、③仕事をしているとき以外の時間の過ごし方について、④働くことでの貢献感について、⑤仕事をすることで見えてきた展望について、⑥学校で学んでほしかったことについての六つの枠組みで構成した。インタビューで聞き取る際には、全ての質問に対して、「はい、いいえ、分からないorどちらとも言えない」の3件法で回答してもらい、その回答に対する内容や背景等を可能な範囲で確認することとした。

3. 実施時期

就労先に対しては、2019年8月下旬~9月上旬にインタビュー調査を実施した。

榊・今林(印刷中)の卒業生に対するインタビュー調査は、2019年7月下旬~8月上旬に実施している。調査対象者である卒業生は全員が進路先での就労を継続しており、調査時点で就職後約4か月が経過している。この時期は、仕事内容や人間関係を含む職場の環境に慣れてくる時期である。また、シャインのキャリア発達理論(渡辺, 2003)にもあるように、仕事が自分に合っているかを見極めたり、高等部在学中に思い描いていたイメージと実際の仕事内容や人間関係などの現実とのギャップによる不安感や喪失感など、いわゆるリアリティー・ショックを感じたりする時期でもある。

4. 調査方法と手続き

本研究では、榊・今林(印刷中)と同様に、対面しながら面接者の質問の意図を正確に伝えることができ、また、不明瞭な回答については、さらに詳しく尋ねることができる調査的面接法(半構造化面接)を用いた。

就労先へのインタビューは、事前に電話でインタビュー調査の許可を得て、Z特別支援学校が夏季休業中に実施しているアフターフォロー・アフターケアに同行するなどして就労先を訪問して行った。要した時間は就労先3事業所とも20分前後であった。

なお、榊・今林(印刷中)の卒業生へのインタビューは、それぞれの被験者の勤務終了後に就労先で行っており、要した時間は卒業生3名とも30分前後である。

手続きとして、研究の目的を説明した後、面接者と調査対象者との間でインタビューに先立って、

Table 1 インタビューでの質問項目

| 卒業生への質問項目 | 就労先への質問項目 |
|---|---|
| <p>1 仕事をするとときに困ったことがあるか。【認知】</p> <p>○人間関係・コミュニケーションの面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、仕事のとときに相手の意見をしっかりと聞くことができますか。 ・あなたは、仕事のとときに自分の考えを正確に伝えることができますか。 ・あなたは、与えられた役割(仕事)を最後までやり遂げることができますか。 <p>○仕事の指示理解・対処能力の面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、仕事のとときに指示されたことについて理解できていますか。 ・あなたは、仕事で分からないことや困ったことがあったとき、どのようにすれば良いかを考えていますか。 ・あなたは、仕事で分からないことや困ったことがあったとき、解決することができますか。 <p>○仕事の内容の面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、今の仕事内容は自分に合っていると感じていますか。 | <p>1 仕事をするとときに困ったことがあるか。【認知】</p> <p>○人間関係・コミュニケーションの面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、仕事のとときに相手の意見をしっかりと聞くことができますか。 ・あなたは、仕事のとときに自分の考えを正確に伝えることができますか。 ・あなたは、与えられた役割(仕事)を最後までやり遂げることができますか。 <p>○仕事の指示理解・対処能力の面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、仕事のとときに指示されたことについて理解できていますか。 ・あなたは、仕事で分からないことや困ったことがあったとき、どのようにすれば良いかを考えていますか。 ・あなたは、仕事で分からないことや困ったことがあったとき、解決することができますか。 <p>○仕事の内容の面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、今の仕事内容は~さんに合っていると感じていますか。 →~さんは、どのように感じていますか。 |
| <p>2 相談者の有無について【相談者の有無】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、困ったことがあったとき、誰かに相談することができますか。 <p>3 仕事をしているとき以外の時間の過ごし方について【余暇・生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、連絡を取り合っている友達がいそぐですか。 ・あなたは、習い事やスポーツなどをしていますか。 ・あなたは、休日に外出をしますか。 | <p>2 相談者の有無について【相談者の有無】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、困ったことがあったとき、誰かに相談することができますか。 <p>3 仕事をしているとき以外の時間の過ごし方について【余暇・生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、連絡を取り合っている友達がいそぐですか。 ・あなたは、習い事やスポーツなどをしていますか。 ・あなたは、休日に外出をしていますか。 |
| <p>4 自分がしている仕事に対する社会の中での位置付け・価値付け【貢献感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、仕事で褒められることがありますか。 ・あなたは、自分が仕事で同僚からの期待を感じることがありますか。 ・あなたは、自分が仕事で役に立っていると感じることがありますか。 | <p>4 自分がしている仕事に対する社会の中での位置付け・価値付け【貢献感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、仕事で褒められることがありますか。 ・あなたは、自分が仕事で同僚からの期待を感じていると思いますか。 ・あなたは、自分が仕事で役に立っていると感じていますか。 |
| <p>5 仕事をすることで見えてきた夢や目標、希望について【展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事について、あなたは、何か新しいことにチャレンジしてみたいと思うことはあるか。※労働 ・あなたは、生活場所を変えてみたいと思うことはありますか。※生活 ・あなたは、お金の管理を自分でしてみたいと思うことはありますか。※生活 ・あなたは、毎日の生活のなかで、何か新しいことにチャレンジしてみたいと思うことはありますか。※労働 <p>6 学校でもっと学んでおきたことについて【学習の意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは学校で、もっと一般的な常識やマナーについて教えてほしいと思いますか。 | <p>5 仕事をすることで見えてきた夢や目標、希望について【展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事について、~さんは、何か新しいことにチャレンジしてみたいと思うことはありますか。※労働 ・あなたは、生活場所を変えてみたいと思うことはありますか。※生活 ・あなたは、お金の管理を自分でしてみたいと思うことはありますか。※生活 ・あなたは、毎日の生活のなかで、何か新しいことにチャレンジしてみたいと思うことはありますか。※労働 <p>6 学校でもっと学んでおきたことについて【学習の意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは~さんに学校で、もっと一般的な常識やマナーについて学んでほしいと思いますか。 →~さんは、どのように感じていますか。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは学校で、もっと読み・書き・計算など国語や数学に関する知識を教えてほしいと思いますか。 ・あなたは学校で、もっと人と人の関わり方について教えてほしいと思いますか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは~さんに学校で、もっと読み・書き・計算など国語や数学に関する知識を学んでほしいと思いますか。 →~さんは、どのように感じていますか。 ・あなたは~さんに学校で、もっと人と人の関わり方について学んでほしいと思いますか。 →~さんは、どのように感じていますか。 |

(注)~さんは、卒業生の名前を表す。

三つの確認等を行った。一つ目は、調査対象者からの申し出によって、いつでもインタビューを中止したり一部について回答を拒否したりすることは可能であることを伝えた。二つ目は、面接を録音することの許可を調査対象者から得た。三つめは、研究結果の公開について、プライバシーや権益の保護を最優先することを伝え、論文等にまとめて公開することへの承諾を調査対象者から得た。

結果と考察

インタビュー調査の結果について、榊・今林(印刷中)の卒業生の結果と本研究でのそれぞれの就労先の結果ごとに、六つの質問内容別(〈仕事をするときに困ったことがあるかないかの認知〉〈相談者の有無〉〈仕事をしているとき以外の時間の過ごし方〉〈働くことでの貢献感〉〈仕事をする中で見えてきた展望〉〈学校で教わっておきたかったこと・学校で学んでほしかったこと〉)にまとめ、卒業生とその就労先間を比較して行った。

1. 卒業生Aとその就労先の事例

卒業生Aは、実家から就労先に通勤している。卒業生Aの就労先での仕事内容は店舗販売店員である。

(1) 卒業生Aとその就労先のインタビュー結果

卒業生Aとその就労先のインタビュー結果についてまとめたものをTable 2に示す。

〈仕事をするときに困ったことがあるかないかの認知〉

人間関係・コミュニケーションの面 卒業生Aと就労先との共通点は、相手の意見をしっかりと聞くことができている、仕事を最後までやり遂げることができていると捉えていることである。差異点は、卒業生Aはお客さんから聞かれて、返答に困ったときに、同僚に伝えることができていることから、自分の考えを正確に伝えることができていると受け止めているのに対し、就労先はそのことは理解ししつつも、常に自分の考えを伝えることができているとは受け止めていない点である。

仕事の指示理解・対処能力の面 仕事で分からないことや困ったことがあったときは、周りの人に聞くことで対処していると受け止めていることが共通点である。

仕事の内容の面 共通点は、今の仕事は、合っていると捉えていることである。差異点は、就労先は卒業生が業務量としては今以上に増えることは困ると思っているかもしれないと捉えていることである。

〈相談者の有無〉

相談者の有無については、職場では一緒に働いている人、プライベートなことについては家族(保護者)と共通した認識をしている。

〈仕事をしているとき以外の時間の過ごし方〉

仕事をしているとき以外の時間の過ごし方については、就労先は把握できていない結果であった。

〈働くことでの貢献感〉

共通点は、卒業生Aは「ありがとう」と言われるなど褒められた経験があると回答し、就労先も

Table 2 卒業生 A と卒業生 A の就労先のインタビュー結果

| 卒業生Aのインタビュー結果 | 卒業生Aの就労先のインタビュー結果 |
|---|---|
| <p><仕事をするとときに困ったことがあるかないかの認知> 人間関係・コミュニケーションの面 相手の意見をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができています。周囲の人に伝えて、助けてもらったりしています。また、自分の仕事のノルマをこなすなど、与えられた仕事を最後までやり遂げることができています。</p> <p>仕事の指示理解・対処能力の面 指示されたことの理解は、できたりできなかったりだが、どのようにすれば良いかを考え解決することができています。困った時はすぐに周りの人に聞いたり相談したりして対処している。</p> <p>仕事の内容の面 今の仕事は、楽しいと思えることから自分に合っていると感じている。</p> | <p><仕事をするとときに困ったことがあるかないかの認知> 人間関係・コミュニケーションの面 相手の意見を聞くことはできていて、話の内容の理解が早い。自分の考えを伝えることは、常にできているわけではない。基本的に仕事をルーチン化して、そのルーチン化を新たにしたときには、質問をすることはあるが、ルーチン外の仕事には今は触れさせていないので、自分で考えてすることはあまりない。フロアでお客様と触れ合えるような所で、お客様から質問があったときには自分で考えて答えることができています。仕事を最後までやり遂げることに付いては、これを何個、何時までにとという仕事内容では、与えられた数よりは実際は少なくなることはある。</p> <p>仕事の指示理解・対処能力の面 仕事で指示されたことの理解はできている。仕事で分からないことや困ったことがあったときは、誰に声を掛けるとか、指示系統を明らかにしてから、業務をさせている。また、次の日に持ち越すような仕事がないので、解決できないことはない。</p> <p>仕事の内容の面 仕事内容は合っていると思う。本人は、合っていると思っていると思うが、業務量としてはこれ以上増えるのは困ると思っているかもしれない。</p> |
| <p><相談者の有無> 仕事は職場の人と母親、プライベートなことは母親に相談している。障害者就業・生活支援センターの担当者は相性が悪く相談しにくい。</p> | <p><相談者の有無> 職場では私たちに聞いている。仕事以外では母親。母親に相談したことの会話を聞いたことがある。</p> |
| <p><仕事をしているとき以外の時間の過ごし方> 高等部時代の友達とメール等で連絡をとっている。内容は、「今日は暑かった」などの世間話。習い事は、小学部時代から習字をしている。これからも続けたい。休日は父親と近場のスーパーなどに出掛けている。</p> | <p><仕事をしているとき以外の時間の過ごし方> 連絡を取り合っている友達がいるかどうかは、分からない。私とはそのような会話をしない。習い事もしていないのではない。休日には家族と外出をしている話を聞く。家族以外との外出については聞いたことはない。この間、職場に妹さんが遊びに来ていた。妹さんにおこっていた。</p> |
| <p><働くことでの貢献感> 仕事中、器具類の交換や皿洗いをしたときに「ありがとう」と言われるなど褒められるなど、自分が仕事で役に立っていると感じているが、同僚からの期待は感じていない。</p> | <p><働くことでの貢献感> 仕事中、業務に対してのスピードや正確さに対して褒めている。仕事の理解が速い。行動強化のフィードバックをベースに、何が良かったのか、その都度確認している。振り返りも一日の最後に行っている。Aさんが仕事で同僚からの期待を感じていると思うかという質問に対しては、毎月仕事自体は変わっているので、感じてもらえるように業務内容を組んでいるつもりである。Aさんが仕事で役に立っていると感じていると思うかという質問は、どう感じているかは分からない。今度人事考課をするので、聞いてみたいとは思っていた。家では楽しくて新しいことをしてみたいと母親に言っているみたいなので感じているとは思いますが、わざわざ自分から表現するタイプではないので分からない。</p> |
| <p><仕事をする中で見えてきた展望> 労働 仕事については、今のままで満足しており、何かチャレンジしてみたいと思うことはない。</p> <p>生活 母親は、「一人暮らししてもいいんだよ」と言うけど、私はそうは思わない。一人暮らしとか考えたことはない。</p> <p>お金の管理は、母に頼んでいる。一度母親と一緒にATMの使うためにチャレンジしてみたが、難しくてもういいと思った。</p> <p>家族でご飯を食べに連れて行きたい。親に言ったら自分の分だけでいいよと言う。私は皆の分を払いたいの。</p> <p>余暇 家族旅行に連れて行きたい。親に言ったら、食事と同じように、自分の分だけでいいよと言う。私は皆の分を払いたいの。</p> | <p><仕事をする中で見えてきた展望> 労働 仕事については、ドリンク作成を以前、インターンシップではやっていた。今はまだしていないので、「ドリンク作ってみたい?」と聞いてみたら、してみたいと言っていた。</p> <p>生活 生活場所の変化について、一人暮らしとかは考えていないと思う。</p> <p>お金の管理については、自分でしてみたいと思っているとは思わない。いつもお弁当を持参するし、自分で何かを買っている様子もないので、日頃お金をあまり扱っていないと思う。稼いだお金をどうしているのかは分からない。</p> <p>余暇 私は、仕事の時間以外の話はあまりしない。他のスタッフの方が詳しいかもしれない。</p> |
| <p><学校で教わっておきたかったこと> 一般的な常識やマナーについて、重要性を教えてほしかった。</p> <p>数学はもう少しパーセントや何割を教えてほしかった。教えてはもらってはいるんだけど、今よく使うから思う。分からないときは親に教えてもらっている。</p> <p>人との関わり方については、敬語とかもって教えてほしかった。たまに言葉遣いに不安がある。正しいか自信がない。身に付いていないと感じている。</p> | <p><学校で学んでほしかったこと> 一般的な常識やマナーについては分からない。学校時代と今の卒業生Aさんのキャラクターは全然違うと思う。学校時代はできていてもうちでは発揮できていないこともあると思う。学校で教えていてきていないのか、教えていけないのか分からない。欲を言えば、もうちょっと活気があれば良い。少しもじもじするのは性格だと思うので。生徒会長をしていて舞台上でスピーチをしようと言うから、恥ずかしがり屋ではないと思うのだが。本人がどう思っているかは分からない。</p> <p>国語や数学に関する知識については何の問題もない。卒業生Aも、うち(就労先)で働く分には問題ないと思っていないと思う。困っている様子もない。</p> <p>人との関わり方については、多分、自分(卒業生A)のグループの中で良かったのかもしれないが、もう少し学んでほしかったと思う。本人(卒業生A)も毎日の日報には「もっと～したかった」というコメントがあるから思っていると思う。</p> |

褒めていると回答していることである。差異点は、同僚からの期待について、卒業生 A は感じていないと回答しているのに対し、就労先は感じてもらえるように業務内容を組んでいると回答していることである。

<仕事をすることで見えてきた展望>

労働 差異点は、卒業生 A は仕事について今のままで満足しているのに対し、就労先は卒業生 A がドリンクを作ってみたいと思っていることである。

生活・余暇 生活と余暇に関することについては、就労先は把握できていないという結果であった。

<学校で教わっておきたかったこと・学校で学んでほしかったこと>

共通点は、人との関わり方については、もっと教わっておきたかった・学んでほしかったと感じていることである。差異点は、国語や数学に関する知識について、卒業生 A は不自由を感じているのに対し、就労先は問題ないと捉えていることである。

(2) 卒業生 A とその就労先についての考察

卒業生 A とその就労先のインタビュー結果について比較すると、全体的には、特に仕事に関する内容は共通するところが多く見られ、仕事以外に関する内容については、把握しきれていない傾向が見られた。仕事に対してスムーズに取り組むことができるための配慮として、仕事をルーチン化したり、分からないことや困ったことがあるときには、相談内容によって相談する相手を明らかにしたりしている点など支援体制が確立されていることが分かる。〈働くことでの貢献感〉では、就労先は「スピードや正確さに対して褒めている」と回答するなど、褒める観点を意識しており、また、卒業生 A にもそのことがしっかりと伝わっていることがうかがえる。

2. 卒業生 B とその就労先の事例

卒業生 B は、特別支援学校高等部卒業後グループホームを利用し、グループホームから就労先に通勤している。卒業生 B の就労先での仕事内容は洗剤の作業員である。

(1) 卒業生 B とその就労先のインタビュー結果

卒業生 B とその就労先のインタビュー結果についてまとめたものを Table 3 に示す。

<仕事をするときに困ったことがあるかないかの認知>

人間関係・コミュニケーションの面 卒業生 B と就労先との共通点は、相手の意見を聞くことができている、任された仕事は最後までできていることである。差異点は、自分の考えを伝えることができているかという点である。卒業生 B は言いたくても言えなかったり、言い方が分からなかったりと自分の考えを伝えるときのコミュニケーション・スキルの力不足を感じているのに対し、就労先はどちらかという自分の考えを伝えることはできていると受け止めている。また、就労先は、卒業生 B は自分の意見があっても正しいときでも、他人の意見で変わるなど、他人の意見に影響されやすいと捉えている。

Table 3 卒業生 B と卒業生 B の就労先のインタビュー結果

| 卒業生Bのインタビュー結果 | 卒業生Bの就労先のインタビュー結果 |
|---|--|
| <p><仕事をするとときに困ったことがあるかないかの認知> 人間関係・コミュニケーションの面 仕事のときに相手の意見をしっかりと聞くことは、まあまあできている。忙しいときは半分しか聞けないときがあるが、しっかりと聞こうとは思っている。自分の考えは、言いたくても言わずらくて言えない。どう言ったらいいかわからないし、言うタイミングがわからない。空気を読むのが難しい。どんどん忙しくて時間が流れていくから、結局は最後に怒られる。与えられた仕事は、自分の休憩時間を削ってで、最後までやり遂げることができている。</p> <p>仕事の指示理解・対処能力の面 指示されたことについて、最初の頃は分からないことがあったが、慣れば理解できるようになった。困った時には、周囲の人に聞くか、自分で前にやったことを思い出しながらしていい。それでも、前とは若干変わって困ることもある。変更したことは伝えてほしい。困ったことは、可能な限り解決できている。誰でもいいから助けを求めているようにしている。</p> <p>仕事の内容の面 今の仕事は自分にあまり合っているとは思わない。実習のときはずっとその場において皿を取るだけだった。働いて初めて運ぶという経験をした。重たいものが多いから、(体力に不安がある自分には)本当に合っているのかなと思う。思っていたものと違う。辞めたいと思うときもある。怒られることもあるから。</p> | <p><仕事をするとときに困ったことがあるかないかの認知> 人間関係・コミュニケーションの面 仕事のときに相手の意見をしっかりと聞くことは、できている。自分の考えを伝えることは、どちらかというところできている。自分の考えはあっても人の意見を聞くこととすぐに変わったり、自分の意見が正しいときでも人の意見で変わったりすることがある。他人の意見に流れやすい。仕事を最後までやり遂げることについては、任せられたことは最後までできている。</p> <p>仕事の指示理解・対処能力の面 仕事で指示されたことの意味はできている。気になる点もなく、普通の人と同じ。分からないことや困ったことがあったら、聞きに来る。本人は、聞くことが最善の方法だと思っていると思う。間違いがないように聞きに来る。また、解決できないときは、周りの人が手伝うので結果的には解決できていることになる。</p> <p>仕事の内容の面 仕事内容がBさんに合っているかは、どちらかというところ合っている。この仕事しか知らないわけだから、判断はできないが、他のパートさんからは信頼されているので、環境としては良いと思う。本人も合っていると思っていると思う。</p> |
| <p><相談者の有無> 困ったことがあったとき、グループホームの人に相談している。職場の人にはしてはいるけど解決にならない。何も対処してくれない。お父さんには、グループホームに入っていて、離れているから、相談していない。友達には相談はしない。障害者就業・生活支援センターの人は最近来ないから相談しようがない。</p> | <p><相談者の有無> 仕事では、私やパートの皆さんに相談している。仕事以外の場面では、相談した話を聞いたことがないので分からない。</p> |
| <p><仕事をしているとき以外の時間の過ごし方> 高等部時代の友達とSNSで連絡を取っている。休日の外出はグループホームの職員や高校時代の友達、その保護者とする。気分転換しないと次の日の仕事がつきつかる。グループホームの利用者とはしない。一人で出かけるときは、バスで乗り換えの必要のないところに行く。</p> | <p><仕事をしているとき以外の時間の過ごし方> 連絡を取り合っている友達にはいるとは思いますが、具体的に誰とかまでは分からない。休日の外出については、出掛けたような話も聞かずに、誰と出掛けたかは、そこまで突っ込んだ話はしないので分からない。</p> |
| <p><働くことでの貢献感> 仕事で褒められたことはない。同僚から期待されていると感じたこともない。与えられた仕事は、できて当たり前で感じ。上司からもそれぐらい当たり前と言われる。仕事で役に立っているか分からない。じゃまという感じの扱いをされる。仕事が遅いと言われる。</p> | <p><働くことでの貢献感> たまにある程度だが、要望した仕事の次の段階までできたときは褒めている。Bさんが仕事で同僚からの期待を感じていると思うかという質問に対しては、期待していると言葉で表現したことはないが、感じていると思う。Bさんが仕事で役に立っていると感じていると思うかという質問は、役に立っていると言葉で表現したことはないが、感じていると思う。</p> |
| <p><仕事をすることで見えてきた展望> 労働 仕事でチャレンジしてみたいことは、2階にパティシエさんがいる。そこでやってみたい。もともとパティシエになるのが夢だった。作っている人を見に来るから、憧れる。</p> <p>生活 生活場所を変えたいとは、あまり思わない。グループホームは、気の合わない人がいても楽しい。</p> <p>余暇 余暇の過ごし方については、今のままで良い。旅行は、怖くてできない。今の状態で満足している。</p> | <p><仕事をすることで見えてきた展望> 労働 今ちょうど中だるみの状態で、仕事で何かチャレンジしたいという感じはない。</p> <p>生活 生活場所については、現在入っているグループホームから他に考えてみたいと考えている様子は感じない。</p> <p>お金の管理については、貯金があまり始めたと言っているので、自分でしたいと思っていると思う。</p> <p>余暇 休日の過ごし方については、特に変化を求めている感じはない。</p> |
| <p><学校で教わっておきたかったこと> 一般的な常識やマナー、読み・書き・計算など国語や数学に関する知識については、仕事で特に不自由を感じていない。</p> <p>もっと人との関わり方について教えてほしかったと思う。どう接すればいいかを教えてほしかった。どのタイミングで話しかけるのか。話しかけたときにこう話しかけられたら、こう返すとか。</p> | <p><学校で学んでほしかったこと> 一般的な常識やマナーについては、本人がどう思っているかは分からないが、今のままで十分だと思う。</p> <p>数学に関する知識については、もっと学んできてほしかったと思う。勤務報告を出すときに時間の計算ができない。8時から17時とか9時から17時はできるか、8時半から7時間後が分からない。時間の計算だけが問題で、本人が悩んでいる様子はない。</p> <p>人との関わり方については、強いて言えば、挨拶が下手である。本人は挨拶が下手とは思っていないと思うが、学ばせたいと思う。</p> |

仕事の指示理解・対処能力の面 仕事での指示理解についての回答は共通するところが多い。分からないことや困ったことがあったら、訊くことで対応できている。

仕事の内容の面 仕事内容が合っているかについては、卒業生 B と就労先の捉え方は異なる結果であった。卒業生 B はあまり合っているとは思っていないのに対し、就労先はどちらかという合っていると評価しており、また、本人も合っていると思っているだろうという結果であった。

<相談者の有無>

相談者の有無について、卒業生 B と就労先の回答は異なる結果であった。困ったことがあったときには、卒業生 B はグループホームの支援員に相談しており、就労先の人には仕事のことであっても相談することが難しいと回答している。一方、就労先は仕事のことについては相談されていると捉えている。

<仕事をしているとき以外の時間の過ごし方>

仕事をしているとき以外の時間の過ごし方については、就労先は詳細なことまでは把握できていない結果であった。

<働くことでの貢献感>

就労先は、要望した仕事の次の段階までできたときは褒めていると回答しているのに対し、卒業生 B は褒められたことはないと受け止めている。就労先は、卒業生 B の仕事における貢献に対して特に言葉では表現してはいないが、そのことを卒業生 B は感じてくれていると捉えている。

<仕事をする中で見えてきた展望>

労働 労働については、卒業生 B は同じ会社内の他の部署の仕事にチャレンジしてみたいと思っているが、就労先の担当者は気が付いていない状況である。

生活・余暇 生活と余暇に関することについては、卒業生 B と就労先の回答はほぼ共通している。

<学校で教わっておきたかったこと・学校で学んでほしかったこと>

一般的な常識やマナーについての回答は、双方とも仕事上では特に問題ないと認識している。数学に関する知識については、卒業生 B は不自由を感じていないし、就労先も卒業生 B はそう感じていないと思っているが、就労先は時間の計算についてはもっと学んできてほしかったと捉えている。人との関わり方については、被験者 B と就労先ともに具体的な内容は異なるが、在学中での学習の必要性を感じている。

(2) 被験者 B とその就労先についての考察

被験者 B とその就労先のインタビュー結果について比較すると、<仕事をするときに困ったことがあるかないかの認知>と<相談者の有無>については、回答内容に異なる点が多く認められた。また、仕事以外に関する内容については、就労先では把握しきれていない傾向が見られた。<働くことでの貢献感>では、就労先の担当者は卒業生 B との関わりの中で表情や仕草などの非言語的な方法で褒めたり、貢献度を認めたりしていると認識しているが、卒業生 B には十分に伝わっていないことがうかがえる。卒業生 B にとっては、働くことでの貢献感の低さが今の仕事は自分にあまり

合っているとは思えないことにつながっているとも考えられる。貢献度を卒業生 B 自身によって実感できるような方策の検討が必要であると推察される。

3. 卒業生 C とその就労先の事例

卒業生 C は、実家から就労先に通勤している。卒業生 C の就労先での仕事内容は清掃作業員である。

(1) 卒業生 C とその就労先のインタビュー結果

卒業生 C とその就労先のインタビュー結果についてまとめたものを Table 4 に示す。

<仕事をするとときに困ったことがあるかないかの認知>

人間関係・コミュニケーションの面 卒業生 C と就労先との回答は、共通点が多い。自分の考えを正確に伝えることについては、卒業生 C は「自分の考えを伝える場面（必要性）はない」と回答し、就労先も「仕事の内容は、ある程度の決まりの中ですするため、本人の考えを伝える機会が今のところない」と回答するなど、共通の認識である。しかし、就労先は今後仕事内容がステップアップしていく中で、主体的に仕事場面で行動していくのはこれからの課題であると考えている。

仕事の指示理解・対処能力の面 指示されたことへの理解については、卒業生 C はほとんどできていると回答しているのに対し、就労先はどちらとも言えないと回答している。これは就労先が、「向こうのトイレを見てきてね」と指示したときに、見るだけでなく、汚れているかどうかのチェックや汚れていたときはきれいにする対応を求めている。つまり、言葉に表現されていることだけでなく、その行為の関連することも含めた暗黙の前提を正しく捉えることを求めている。

また、分からないことや困ったことがあったときの対応については、卒業生 C と就労先は、上司に相談し、最終的には解決することができていると同様の回答をしている。

仕事の内容の面 仕事内容が合っているかについては、卒業生 C と就労先の捉え方は合っているという共通の結果である。

<相談者の有無>

相談者の有無について、仕事の相談は就労先の人、仕事以外の相談は親と回答するなど卒業生 C と就労先は同様な結果である。

<仕事をしているとき以外の時間の過ごし方>

連絡を取り合っている友達の存在については、就労先は分からないと回答している。就労先は、仕事をしているとき以外の時間の過ごし方については、詳細なことまでは把握できていない結果である。

<働くことでの貢献感>

卒業生 C は、同僚やトイレの利用者から「ありがとう」や「期待の星」と言われたり、ボランティアの人から「頑張ってるね」と言われたりしたことからの貢献感があるという結果であった。就労先も「期待しているよ」や「ありがとう」と言葉を掛けていると回答している。被験者 C と就労先は

Table 4 卒業生 C と卒業生 C の就労先のインタビュー結果

| 卒業生Cのインタビュー結果 | 卒業生Cの就労先のインタビュー結果 |
|--|---|
| <p><仕事をすると困ったことがあるかないかの認知> 人間関係・コミュニケーションの面 相手の意見をしっかりと聞くことはできている。自分の考えを伝える場面(必要性)がない。与えられた仕事を最後までやり遂げることはできている。 仕事の指示理解・対処能力の面 指示されたことについて理解はほとんどできている。たまに分からないことはあるが、聞き返している。分からないことや困ったことがあったら、一日の中で、仕事の流れを考えながら、できることをするようにしている。上司に電話したり、近くの人々に聞いたりして解決している。 仕事の内容の面 今の仕事内容は自分に合っている。自分には清掃しかないから。高等部時代にいろいと実習して清掃しかないと思った。今のところ清掃の仕事が一番合っている。他の仕事をしてみたいと、今は思わない。</p> | <p><仕事をすると困ったことがあるかないかの認知> 人間関係・コミュニケーションの面 仕事のときに相手の意見をしっかりと聞くことはできている。仕事をしているのを見ていて、できていないところはその場で言ったり直すことができるなど、指示がしっかりと通っている。自分の考えを伝えることができるかということ、どちらも言えない。基本的に仕事の内容が、ある程度の決まりの中で、やっているの、自分の考えを伝える機会が今のところない。考えて仕事をしていくのはこれかと、本人には言っている。いつもしないところを時間がある時に清掃していくとか、今からのことですね。仕事を最後までやり遂げることについては、他の人と一緒にやっているの、できている。 仕事の指示理解・対処能力の面 仕事で指示されたことの意味は、できているときとできていないときがある。もう一人清掃の女性がいるが、向こうのトイレを見てきてねと言うと、見ただけとか。汚れていたかどうか聞くと、どうだったかなという感じで、見ただけということが。分からないときにや困ったことがあったら、聞くようにさせている。今の段階では、自分で判断させるわけにはいかない。責任はこちら(上司)でとるので、聞くようにさせている。ここで働いている職員は全員、分からないことはこちら(上司)に聞くようにさせている。 仕事の内容の面 仕事内容がCさんに合っているかについては、性格的に合っていると思う。真面目でコツコツやってくれている。本人も性格的に合っていると思う。</p> |
| <p><相談者の有無> 仕事の相談は、上司や一緒に働いている同僚にしている。仕事以外はまだあまり困ることはないが、困ったら親にする。障害者就業・生活支援センターの人は会う機会がない。</p> | <p><相談者の有無> 仕事は、私たちに聞いている。家では、お父さんとお母さんに聞いてもらっている様子だ。家族とのコミュニケーションは良く取れていると感じている。</p> |
| <p><仕事をしているとき以外の時間の過ごし方> 最近では誰とも連絡は取り合っていない。以前は高等部時代のときの友達とSNSで取っていたが、自分から連絡をすることはしない。話す内容がない。休日の外出は、最近はお父さんとばあちゃんの家に行ったり、庭の手入れをしたりしている。遊びで外出はしない。友達と休みの日が合わない。</p> | <p><仕事をしているとき以外の時間の過ごし方> 連絡を取り合っている友達がいるかどうかは、分からない。職場では友達の話は聞かない。休日の外出は親と一緒に行っている。ホームセンターに仕事の道具を買いに行ったときに、親と一緒にいるところを見たことがある。友達の話をしているのを聞いたことはない。</p> |
| <p><働くことでの貢献感> 他人が褒められることはある。いつもの仕事やたまにしかできないことをしたときに同僚から「ありがとう」と言われた。 同僚からの期待も感じる。違う部署の人から「期待の星」と言われたことがある。他は、ボランティアの人から「頑張ってるね」と言われたことがある。 自分が仕事で役に立っていると感じる。理由は、頑張っているから。トイレを掃除していたら利用した人から「ありがとう」と言われた。</p> | <p><働くことでの貢献感> 他人が褒められることはある。いつもの仕事やたまにしかできないことをしたときに同僚から「ありがとう」と言われた。 Cさんが仕事で同僚からの期待を感じていると思うかという質問に対しては、感じていると思う。私が、「期待しているよ」と言っているから。 Cさんが仕事で役に立っていると感じていると思うか、仕事をする上で、当然そうであると思う。台風の日に来てくれたので「ありがとうね」と言ったことがある。</p> |
| <p><仕事をする中で見えてきた展望> 労働 仕事でチャレンジしてみたいことはない。仕事内容は、一緒に働いている人と全く同じ。 生活 一人暮らしをしてみたいという希望はないわけではないが、今はいい。強い希望ではない。 お金の管理 自分でしてみたいと思う。今は、通帳は親が管理していて、引き出すときは親と一緒にいる。親が、お金の管理をさせると言っていたので、することになると思う。 運転免許 があるから、通勤など自分で車を運転して移動してみたいと思わないかという質問に対しては、職場では、運転をしているし、運転自体はチャレンジではない。当たり前のこと。近日で車を購入して自分で通勤することになっている。 余暇 欲を言えば、バイクの免許を取って、バイクを買いたい。</p> | <p><仕事をする中で見えてきた展望> 労働 仕事でのステップアップは考えていると思う。最初で、入社するときの面接とかでも、そういう話はある。賃金関係でも、しっかりと評価して上げてあげたい。そのために今やっていることだけではなく、違うこともできるようになれば評価はしやすくなると思える。 生活 後々は一人暮らしとかはしてみたいと思っていると思う。保護者の方も以前面接のときに言っていた。ただ、本人はまだ考えていない気もする。とりあえず、来週あたりに車が来るので、それからがスタートです。今まで雨が降ると親が迎えに来ていた。これからは自分であちらこちら出掛けることも増えるのかなと思う。 お金の管理 についてどうしているか、どうしたいのかは分からない。日頃の関わりの中では分からないが、ローンを組んだり、保険に入ったりとかは、親の方からこうした方が良さというアドバイスを貰っているのかなと思う。 余暇 休日の過ごし方については、分からない。親の実家に行ったことを聞くくらいで、それ以外は分からない。</p> |
| <p><学校で教わっておきたかったこと> 自分にとっては、特に不自由はないが、言葉遣いはいっと厳しくしてもらった方が良かったと思う。人との関わり方についても思う。自分は人見知りがあるの、2年のときの担任の先生のおかげで良くなった。</p> | <p><学校で学んでほしかったこと> 一般的な常識やマナーについては、思わない。本人も感じていないと思う。 国語や数学に関する知識についても思わない。仕事に必要なのは足し算引き算などの算数レベルなので感じない。本人はどう思っているかは分からない。 人との関わり方については、この社会的には今のままでいい。他の会社の場合だと分からないが。本人は、どう思っているか分からないが、職員間では問題はない。ただ、お客さんから文句を言われる場合があるが、その時には答えないでいいからすぐに電話で知らせるように指示している。お客さんとのトラブルで、トラウマにならないようにしている。</p> |

同様の回答をしていると言えよう。

<仕事をする中で見えてきた展望>

労働 労働については、卒業生 C は「仕事でチャレンジしてみたいことはない」と回答し、就労先は「卒業生 C 自身が仕事でのステップアップは考えていると思う」と回答するなど、差異が認められる。

生活・余暇 生活と余暇に関することについては、卒業生 C と就労先の回答はほぼ共通している。卒業生 C が近日常に車を購入することについて、就労先も把握しているという結果である。

<学校で教わっておきたかったこと・学校で学んでほしかったこと>

一般的な常識やマナー、国語や数学に関する知識、人との関わり方についての回答は、ほぼ同様の内容である。すなわち、卒業生 C 自身は仕事内容や職場環境に特に不自由は感じているわけではなく、就労先も今の仕事内容では問題ないという認識である。

(2) 卒業生 C とその就労先についての考察

卒業生 C のインタビューを終えて、比較的安定した職業生活を送っている印象である。卒業生 C とその就労先のインタビュー結果について比較すると、全体的に共通性の高い結果である。〈働くことでの貢献感〉では、就労先などが卒業生 C に言葉で貢献度を伝えており、卒業生 C 自身も就労先からの言葉をしっかりと受け止めていることが安定した職業生活へとつながっていると言える。〈仕事をする中で見えてきた展望〉の労働については、差異性が認められる結果であったが、就労先による卒業生 C の特性を理解した上での期待とも受け取れる回答内容である。

全体的考察

榊・今林 (印刷中) によると、卒業生 A と卒業生 C は、今の仕事は自分に合っていると感じており、また、仕事で「ありがとう」等と言われた経験を受けとめて働くことでの貢献感が高いことから、働く生活に一定の満足感があると推察される。一方、卒業生 B は、今の仕事は自分に合っていないとは思わないと感じており、また、同僚から褒められたことがないを受け止めていたり、期待されていると思えないと感じていたりすることから、インタビュー時点での働く生活の満足度は低いと言える状況と思われた。

本研究では、卒業生 3 人とそれぞれの就労先を対象にインタビューを行い、その結果からそれぞれの卒業生の現在の状況を卒業生自身の視点と就労先からの視点で比較している。3 事例の結果と考察を通して、就労直後の卒業生にとって就労を継続するための効果的な関係機関との連携の在り方について考察する。

<仕事をするときに困ったことがあるかないかの認知>

仕事の内容について卒業生 A と卒業生 C の事例では、それぞれの就労先が、仕事内容をルーチン化したり、ある程度の決まりの中で行えるようにしていると答えていることから、意図的に卒業生にとって仕事内容が構造化されるような仕組みになっていると言える。仕事内容が構造化されるこ

とで、仕事上での不安感を低減させたり、すべき仕事内容が分かりやすくなったりすることから、できることを実感でき、有能感が高まり、達成感へとつながっていると言えよう。一方、卒業生 B の事例では、卒業生 B が、指示されたことについて、「慣れれば理解できるようになったが、前とは変わっていて困ることもあるので、変更したことは伝えてほしい」と回答していることから、卒業生 B の就労先では、仕事内容の構造化が少ない状態と推察される。これらのことから、卒業直後の就労先での働く環境としては、ある程度、環境を整備し、毎日の仕事の流れが決まっていて、一定の手順に従い作業を行うことができるようにするなど、働く場所や時間、業務内容について構造化されていることが効果的と言えよう。

<相談者の有無>

困ったときの相談者については、卒業生 A と卒業生 C は、就労先の人と家族を挙げており、それぞれの就労先も同様に答えている。一方、卒業生 B は、相談相手はグループホームの職員と答えており、卒業生 B の就労先は、仕事では就労先の人、仕事以外の場面では相談した話を聞いたことがないと答えるなど意見に差異がある。これは、仕事以外の内容についてのコミュニケーションの少なさが影響していると考えられる。また、これらのことから相談相手として、就労先の人だけでなく、住まいの場での相談者の存在が大きいと言える。家族や一緒に生活する人の支援者としての役割の重要性が示されていると言えよう。

<仕事をしているとき以外の時間の過ごし方>

就労先は、卒業生が連絡を取り合っている友達の有無や仕事をしているとき以外の時間の過ごし方について、共通して把握できていない。卒業生 3 名の回答を比べると、卒業生 3 名とも高等部時代と比べて余暇の活動範囲はあまり変化していない。就労を継続するためには、今林・榎(2018)は、知的障害のある生徒が、一般就労し、就労を継続するときに必要な力の育成についての教師の指導・支援の観点として、私生活の充実の重要性を指摘しており、また、原田・寺川(2017)は、生活の安定に大きく関わるのは、仲間とつながった余暇活動の重要性を指摘している。これらのことから、地域社会での活動に関わる取組は個人や家庭によるところが大きいとは言え、それを支援する立場としての学校、行政、そして、就労先の役割の一つとして、前述の相談者の有無と併せて職場での関わりや会話を通して、卒業生の余暇の充実につながる情報や機会の提供が期待されていると言えよう。

<働くことでの貢献感>

<働くことでの貢献感>については、卒業生 A と卒業生 C の回答とそれぞれの就労先の回答とは、ほぼ一致している。就労先は「ありがとう」や「期待している」等のメッセージを送っており、また、卒業生も上司や同僚のメッセージを受け取って仕事での貢献感を高めていると言える。一方、卒業生 B と就労先については、就労先は卒業生 B の仕事での貢献に対する言葉掛けをしてはいないが、非言語的な方法でメッセージを伝えている。そのような対応の中で、卒業生 B は、同僚からの期待を感じていない、また、役に立っていないと感じており貢献感は低い状態となっている。これ

らのことから、知的障害者には、非言語的な表情や態度によるメッセージでは伝わりにくく、直接的に「ありがとう」や「期待している」等のメッセージを伝えてもらうことが必要であると言える。原田・寺川(2017)も、知的障害者が「必要とされる自分」を感じながら意欲的に働き続けるために、就労先は分かりやすい言葉で「あなたが必要である」というメッセージを伝え続けることが重要であると報告している。

<仕事をすることで見えてきた展望>

卒業生Aと卒業生Cは、労働については今のままで満足しており、就労先は、次のステップの仕事内容を期待している。一方、卒業生Bは以前から関心のあった同じ職場の他の職種に異動を希望し始めている。卒業生Aと卒業生Cの就労先は、前述のとおり、仕事内容が構造化されるような仕組みになっており、次のステップの仕事内容を期待していることから、就労先はキャリアパスの視点をもって障害者雇用を行っていると言えよう。

<学校で教わっておきたかったこと・学校で学んでほしかったこと>

一般的な常識やマナー、国語や数学の知識については、卒業生と就労先との回答は様々であるが、人との関わり方については、卒業生3人とそれぞれの就労先とで必要性を感じているという共通の認識であった。このことから、社会性の促進やコミュニケーション能力の向上に関する指導・支援については、今まで以上に在学中に力を入れて取り組む必要がある。

本研究の結果、就労直後の卒業生を支援し続ける教育機関にとって就労を継続するための効果的な関係機関との連携の在り方について以下のようにまとめられる。

就労先の支援体制としては、卒業直後の仕事内容として、ある程度、毎日の仕事の流れが決まっ
ていて、一定の手順に従い作業を行うことができるようにするなど構造化を図ることである。構造化する内容は、どこで何をするのか(場所)、その日のスケジュールはどうなっているのか(時間)、業務を遂行する順番や量(業務の課題)などを明確にすることが考えられる。また、就労先には、障害特性を考慮し、直接的に「ありがとう」や「期待している」等の言葉での期待を示すメッセージを伝えることを意識してもらう。そうすることが、「必要とされる自分」を感じ、意欲的に働くことにつながることを期待できる。一方、学校では、人との関わり方についての学習を今まで以上に重要視する必要がある。また、家庭は卒業生を支える一番の身近な支援者としての立場にあるという意識を高め、相談相手としての役割を充実することが望まれる。

本研究では特別支援学校を卒業した知的障害者の就労支援について考察しているが、就労上の課題は、コミュニケーション能力に起因するものが多い。コミュニケーションが良好に行われるには、受信者が相手のメッセージの意図を正しく理解できるかや、発信者が伝えたい内容をメッセージとして発信するときに受信者の能力を推し量ることが必要となる。また、会話では、必ずしも必要な全ての内容を含めたメッセージを発するとは限らないことから、双方のコンテキストの範囲の食い違いのないことが求められる。コミュニケーションとは発信者と受信者の関係において、一方向で

はなく、双方向で行われるものであり、発信者と受信者は入れ替わるものでもある。つまり、コミュニケーション能力に関する問題では、特定の個人一人に原因があることはない。これらのことを解消するためには、発信者が伝えたい内容をより具体的にすることが考えられる。例えば、「何を(What)」「誰が(Who)」「いつまでに(When)」「どこで(Where)」「なぜ(Why)」「誰に(Whom)」「どのように(How)」「いくらで(How much)」など、いわゆる「6W2H」を意識したコミュニケーションを心掛けることである。

本研究で明らかになった知的障害者の就労上の課題については、発達障害者の特性に起因するものであることも多く、また、障害のない人でもしばしば起こり得るものである。特に、「6W2H」を意識したコミュニケーションを心掛けることは、ユニバーサルデザイン的な支援方法としても有効であることが期待できよう。

本研究の課題としては、事例数が3件と少ないことであり、今後は事例を増やしていくことが望まれる。また、卒業後1年、3年、5年後といったように継続して事例やその取り巻く環境の変化を追跡研究することが大切である。

最後に、本研究を通して、学校を卒業し社会に送り出す際に必要な支援や、関係機関に対して学校側から働き掛ける視点の一端を明らかにできたことは意義があると言えよう。

引用文献

- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業センター(2014). 精神障害者の職場定着及び支援の状況に関する研究(調査研究報告書No.117) サマリー
(http://www.nivr.jeed.or.jp/download/houkoku/houkoku117_summary.pdf 2019年5月3日)
- 福井信佳・橋本卓也(2015). 知的障がい者の離職要因に関する研究 日本職業・災害医学会会誌, 63(5), 310-315. (<http://www.jsomt.jp/journal/pdf/063050310.pdf> 2017年4月8日)
- 原田徳恵・寺川志奈子(2017). 知的障害のある青年の働く意欲を支える特別支援学校高等部教育のあり方: 卒業生へのインタビュー調査から 地域学論集 鳥取大学地域学部紀要, 13(3), 61 - 81. (<http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/5452> 2018年9月25日)
- 今林俊一・榎慶太郎(2018). 特別支援学校(知的障害者)における就労支援に関する研究(3): 就労継続力の指導・支援に関するPAC分析 鹿児島大学教育学部研究紀要(教育科学編), 69, 165 - 192.
- 厚生労働省(2019). 平成30年障害者雇用状況の集計結果
(<https://www.mhlw.go.jp/content/11704000/000533049.pdf> 2019年9月28日)
- 文部科学省(2018). 特別支援教育資料(平成29年度)
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1406456.htm 2018年8月7日)
- 村野一臣(2016). これからの進路支援に求められるもの 特別支援教育研究, 707, 2-6.
- 榎慶太郎・今林俊一(2020). 特別支援学校(知的障害者)における就労支援に関する研究(5): 卒業生へのインタビュー調査から 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, 29, (印刷中).
- 田中敦士(2006). 発達障害のある人への就労・就業支援 本郷一夫・長崎勤(編)別冊発達28 特別支援教育における臨床発達心理学的アプローチ (pp. 231-240) ミネルヴァ書房
- 渡辺三枝子(編)(2003). キャリアの心理学 ナカニシヤ出版

付記

本調査の実施にあたり、Y県立Z特別支援学校高等部の卒業生の就労先の皆様方に御協力をいただきました。ここに記して深く感謝の意を表します。